

～ 私の大切な孫たちへ ～

看護部長 与倉 まちほ

私の看護師人生は、今年で 40 年近くになります。そう話すと年齢が分かってしまいましたが、高校を卒業し地方から出てきて、この兵庫県の看護専門学校に通い、看護師免許を取得しました。その後結婚、出産して 3 人の子供たちに恵まれ、子供たちを育てながら仕事を続けてきました。

私が看護師になりたいと思った理由は 2 つあります。一つ目は、5 人姉妹の姉 2 人が看護師の道へ進んでいたこと、二つ目は幼少期に読んだ『ナイチンゲール』に感動したことでした。

子育てしながらの看護師の仕事は、とても大変でしたが、それでもやりがいのある仕事だと思っています。子供たちは残念ながら、看護の道には進みませんでした。現在 9 人いる孫のうち、一番上の孫が看護師を目指すと言ったとき、私は大変な仕事だけこの道を選んだ孫に感謝しました。

まだこれからですが、晴れて看護師に成れた時には、感動で涙が溢れる自分を今から想像しています。

世の中は、私が過ごしてきた時代とは違い、IT 化や気候変動、また COVID-19 などの感染症発生で大変な時代になってきています。しかし、世の中がどのように変わろうとも、人生においては人とのつながりだけは、大切にしてほしいと思います。

これからも家族みんな健康で、孫 9 人が将来どんな職業を目指していくのか楽しみでもありますが、社会に貢献できる大人になってほしいと、私の大切な孫たちへエールを送りたいと思います。



～ 介護支援について ～

2 階病棟 藤原 恵美

父が令和 5 年 4 月に永眠し、高齢の母は一人暮らしをしております。その母も先月入院する事となり、1 ヶ月間入院生活をしていました。幸い現在は退院し、1 人暮らしに戻っています。入院前から週に何度か様子を見に行ったり、買い物等を代わりに行ったりしていました。また、転倒によるけがのリスク軽減のためにお風呂場、トイレ等に手すりを付けたり、住居のバリアフリー化を進めたりしていますが、それでも心配というものは尽きないものです。

一人暮らしをしている高齢者の方は、私の母だけでなく、年々増え続けています。地域包括支援センターやケアマネージャー等の介護の専門職に相談し、本人に合ったケアを行う必要性を日々感じています。例えば私の母の場合は、母が入院した時から退院後の一人暮らしをサポートできる様、早めにケアマネージャー等に相談していたため、退院後のリハビリや生活支援の介護サービスをスムーズに利用できました。このように、今後も上手く支援やサービスを利用して、母の気持ちを聞きながら、面倒を見ていければ、と思っています。

親の介護について、世間体や古い常識にとらわれて、一人で悩んでいる方は、支援を受けることを躊躇わないでほしいです。様々な制度やサービスを活用し、自分の家族に合った介護をすることが大切だと思います。父を亡くし、母を介護している今だからこそ、つくづくそう思います。